国際ロータリー第2680地区
第6回　戦略計画委員会　議事録

開催日時　　：2022年12月22日（木）16：00～18：00

開催場所　　：神戸三宮東急 REI ホテル

出席者　　：安行英文ガバナーエレクト（三田）、古川彰治代表幹事（宝塚）、
高瀬英夫委員長（西脇）、矢野宗司副委員長（加古川中央）、
神谷誠治（尼崎中）、永瀬隆一（芦屋川）、竹原善記（宝塚）、
山本裕計（神戸東）、和田孫博（神戸東灘）、前川忠範（加古川中央）、
津田豊（津名）、中村孝秀（龍野）、野澤勝憲（豊岡）、
阪本渚子（神戸須磨 RAC）、若林学次期代表幹事（三田）

議事録作成人：山本裕計

次　第

１．開会挨拶

２．第二期地区ビジョン・戦略計画

「素案」に基づき意見交換

（和田）「ロータリーのブランドイメージを強化する」とあるが、「強化」という言葉が適切か？
「クラブの会員組織強化計画」の具体的イメージが欲しい。

（津田）My ROTARY の活用について、登録しないことの弊害を伝えるべき。

（中村）「2.参加者の基盤を広げる」と「3.参加者の積極的なかかわりを促す」の違いがわかりにくい。

（野澤）戦略についての勉強の場を設けてほしい。

（前川）数値目標は必要で、周知をすべき。

（神谷）地区ビジョンをクラブに周知徹底する必要がある。

（山本）My ROTARY 登録率と寄付額の目標について、地区目標と一般会員の認識に温度差がある。

（竹原）「3.参加者の積極的なかかわりを促す」の3項目目を「地区やクラブが実施する行事やセミナーに積極的にかかわり、ロータリーの感動的な体験を積み重ね、ロータリーの理解を深める」とする。

（阪本）地区ビジョンをローターアクトの中でも共有したい。数値目標はローターアクトで別途目標をつくる。

（若林）「4.適応力を高める」の「バーチャル技術」がわかりにくい
→「IT 技術」「オンライン技術」が適切か？

（和田）ロータリアン個人の計画か、クラブ・地区の計画かがわかりにくい。

（安行）地区ビジョンは地区目的と言ってもよい。目的なら数値目標も納得できる。

（髙瀬）ビジョン・戦略計画を作成後、全クラブ、会員に落とし込む機会を作りたい。
地区大会などの、会員の目に触れる機会で周知したい。

（矢野）数値目標は必要であるが、目標が高いかもしれない。
米山は高めの目標になっている。
ガバナーの思いを縛ってはいけないので、ガバナーエレクト、ノミニー、さらにその次の人で見直してもらいたい。

（和田）クラブで別の数値目標がある。
→クラブに応じた目標設定も必要だという説明をする
ロータリー財団恒久基金の数値目標は、「地区全体で」毎年10名増

文言の変更案は委員長に送る。
委員会の LINE グループを作る。

3．委員会の今後
髙瀬委員長から説明
さまざまな機会で、周知する

4．RAC からの報告（阪本）
現在9クラブ65名のメンバー
ローターアクトからロータリアンになった人は過去10年で1人、他地区ではもっと多い
ローターアクトからロータリアンになる人を増やす

（安行）RI はローターアクトをロータリアンと同格に扱うようになった。年齢制限もない
ローターアクトはロータリアンになるためのものか、定義づけがあいまい

（阪本）海外ではローターアクトとロータリアンの二重会員もいる
2680地区では企業派遣の会員が少ない
友達を誘ったり、インターアクトが入会する

5．次回委員会日程調整
1月26日（木）から変更する

6．閉会挨拶